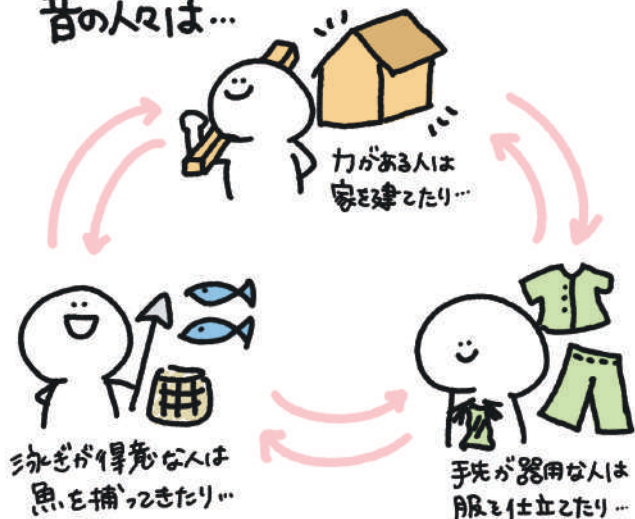


散財癖は「人の役に立えない自分」を解消する行為!!

昔の人々は...



私たちは「人の役に立つ力」の交換をすることで
生活が成り立っていた

“金がないと生きていけない”ではなく
“人の役に立たないと生きていけない”だった

つまり、本来は

自分の**金** **時間**を使うのは

「人の役に立つ力」を身に付けるため

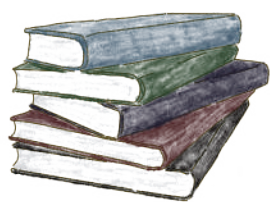
なんだよね...

でも...

人の役に立つスキルが
身に付いてない

負のループに入ってる人は
散財が止まらない

自分の満足のために
金と時間を使う



えさかの相談役

高木のつづやき

社会って何?という疑問から、社会人基礎力の講座が始まる。私は「社会の最小単位は自分」であり、常に社会の中心には、自分が存在すると話す。家族だって両親がいて、自分が生まれたと考えることもできれば、自分がいて母がいて父がいると考えることもできる。つまり社会とは、自分を中心にした広がりであり、手が届く範囲を社会として広げていけばよいと思う。

いっぽう自分の中には、エゴグラムで言う CP (批判的親) や NP (養育的親)、FC (自由な子)、AC (適応した子)、A (大人) といった自我状態が共存する。たとえば、CP が強いと他人に厳しくなり、関係がギクシャクする。AC が強いと従順すぎ、主体性が薄れる。内面がバラバラだと、社会もその混乱を映す。A を育て統合する必要がある。

— 今月のテーマ —

社会の最小単位は自分

この視点は、社会人基礎力の基礎ともつながる。主体性は自分を理解して内面を整えることによって発揮できるとも言えるし、自分を起点として社会を広げる意識を持つことで自らの成長と社会の広がりが同時に達成できる。家族から友人、そして職場への関係が広がり、社会人として生きて働くことができるようになると思う。理想の未来に向かって、一歩前に踏み出す力を発揮しよう。



市役所職員から民間IT企業を経て独立。学生時代から数学やプログラミングに長け、抜け漏れない仮説の立案と検証が得意。悩みや疑問に対する美しく切れ味のいい回答が人気で、救いの一手として、また人生の訓戒として多くの利用者の胸に届いている。

法人代表

高木 学

